



おだしか健康レポート

ODASHIKA HEALTH REPORT

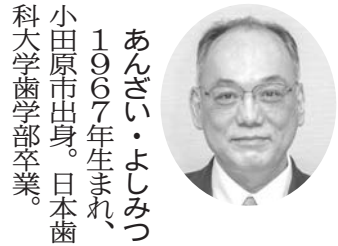
— 1 —

連載開始にあたり
 神静民報をご購読の皆さま、初めまして。一般社団法人小田原
 歯科医師会が会長を務めております安西由充です。今年度より月
 1回、歯や口腔にまつわるお話をすることになりました。
 まず私の所属する小田原歯科医師会(以下本会と略します)に
 ついて説明します。

本会は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の1市3町で歯科診療に従事している歯科医師で構成される地域唯一の歯科専門家の団体になります。設立から100年を数え、約1300人の会員が所属しています。30年ほど前より「地域住民の中の歯科医師」「地域社会の中の歯科医師会」というスローガンを胸に、この地域における個人診療所では対応の難しい歯科医療、予防や啓発に関わる保健活動や福祉活動を事業の柱に活動しています。

さて、これから歯や口腔にまつわる話をしていくわけですが、紙面に限りがありますので、今回は触りをお伝えするつもりです。

歯科医師の誕生は明治39年に遡ります。この事は歯科医師法という法律の制定で明確であり、それまでの医師という範疇から歯科医師という独立した立場になりました。その時に歯科医師に与えられた職務が「むし歯に話める」ということと「入れ歯を入れる」という事でした。恐らく今お読みの方の多くは皆様が歯科医師として至極当然の役割として認識しているでしょう。今と隔世の感があるのは、その当時から昭和36年頃までは歯科を受診する患者さんはそう多くなく



あんざい・よしみつ
 1967年生まれ、小田原市出身。日本歯科大学歯学部卒業。

かかった事です。医療を受けるためには高額な費用がかかった時代であり、少しおかしな程度では医者にかからないうという時代背景がありました。

昭和36年は医療界にとって転機の年で、国民皆保険制度が始まった年になります。現在まで続くこの制度は、誰でも大きな金銭的な負担がなく医療を受けられる恩恵を与えた事は間違いありません。歯科では機械、器具の進歩もあり、このあたりからむし歯はすぐに治すものだという考え方に変わっていきま

「ギーン」と響く機械が登場したのはもう少ししてからになります。その頃の歯科医師会をはじめとした歯科医師は、氾濫するむし歯に対して子ども、特に学校での歯科保健に力を入れていました。とにかく入口を止めようという戦略です。

むし歯とともに太古の昔から人々を悩ませ、口腔の二大疾患に数えられるのが歯周病になります。意外かも知れませんが歯周病の原因がはっきりしたのは昭和40年代の終わりになります。それから治療法が確立し、普及するのに少々時間がかかりました。

この二つの病気の問題は、予防が効果的であるにもかかわらず、かなり進行し痛みなどの自覚症状がないと気づかない点にあります。また、症状が出てくるとかなり高い確率で将来的にその歯を失

う可能性が出てきます。細かいお話しはまたの機会にいたしますが、歯の病気であるむし歯、歯の周りの組織の病気である歯周病が現在の歯科医師のメインの仕事になります。そのため本会では、急な痛みへの救急対応として小田原市休日急患歯科診療所を、普通の診療所での診療が困難な方のために小田原市歯科二次診療所を運営し、この地域で誰もが安心して歯科受診できる環境を作っています。

小田原歯科医師会事務局

TEL. 0465(49) 1311

FAX. 0465(49) 1551

〒250-0875 小田原市南鴨宮2-27-19

一般社団法人小田原歯科医師会は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の歯科医師会会員で構成されています。このホームページでは、一般社団法人小田原歯科医師会が主催、後援または協力している事業とそれに関する情報やお知らせを紹介しています。

<https://odawara-dent.or.jp/>

小田原歯科医師会 検索

歯と口腔に関わるご相談
 往診・歯科訪問診療の
 ご相談は

一般社団法人小田原歯科医師会
地域支援歯科連携室
 まで

TEL/FAX 0465(49) 1319

月～金

9:00～12:00 13:00～17:00